

大分教育事務所訪問②-57 (計130) 大分市立日岡小学校に学ぶ 学校経営から学ぶ

学校の教育目標「主体的に学習に取り組み、他者と協働し、自ら考え行動する児童の育成」を達成するため、目指す子ども像「人とつながる強い子」「思いやりのあるやさしい子」「考えて行動する子」のそれぞれに取組指標を定め、研修・学力向上、生徒指導・人権、特活・体力向上の3部会を中心に、教職員の取組状況と子ども達の達成状況を確認し修正を加えながら取り組まれています。特に、学力向上については、「書く力」を中心に取り組み、単元末テスト正答率60%未満の児童の割合を低・中学年は6%以下、高学年は10%以下を目標に定め、成果と課題、今後の対応について明確にしています。

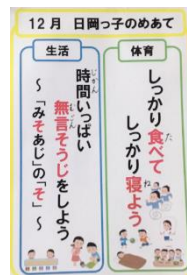
今後は、協議の際に確認した「思いを伝える力」や「考えて行動する力」を育成するために、学校をあげて育成を目指す(教科横断的な)資質・能力を協議して定めてみてはいかがでしょうか。このような上位目標を決めることで、行事などを企画する際に、目的の共通理解が行われやすくなり、実際の方法や手段は担当者に任せることが出来ます。そのことで、担当者の当事者意識が高まり、それぞれの担当者による協働的な新たなアイデア生まれ、より効果的、効率的な実践へとつながるとが期待されます。

※参考資料「小学校学習指導要領解説 総則編 P47 2教科等横断的な視点に立った資質・能力 例：ア 言語能力」

授業から学ぶ

本時のねらいについては、「追求対象、着眼点、到達点」が示されており、日常から意識されると感じました。特に、2年生道徳は道徳の心情の育成を意識され、そのためのながれが明確でした。1年生算数は協力しながら課題を解決する子どもの姿が印象的でした。4年生国語は、ICTを効果的に活用することで、多くの子ども達は友達の良さやみついていたので、その後自分の考えを広げることにつながったことでしょう。

今後は指導案における「振り返り」を教師が願う具体的なゴールの姿を「子どもを主語」にして表記してみてくださいはいかがでしょうか。そのことで、教師が考えた「振り返り」と子どもが実際に書いたものとの違いを分析をしたり、「めあて」との連動、評価規準との整合性について互見授業を通して協議したりすることで授業改善がより推進されると思われました。



ひ NO.576 2021年12月 大分市立日岡小学校
人とつながる
自分の考えを書くのは、自分と向き合うだけでなく、交流の場で友達とつながるため。



お NO.577 2021年12月 大分市立日岡小学校
思いやり
アンテナが高い人は、友達の困りに気づき、そっと寄り添うことができますね。



か NO.578 2021年12月 大分市立日岡小学校
考え行動する
自分でやってみる。友達と協力して行う。できたら静かに待つ。考えて行動できる。